

令和2年度 第5回タウンミーティング

能美市商工会とのタウンミーティング

日 時 令和2年12月17日（木）14時30分～15時30分

場 所 寺井地区公民館

参加人数 33人

1) 開 会

（能美市商工会事務局長）

今日は井出市長から能美市におけるSDGsの取り組みについて講演していただく。

SDGsとは、持続可能な開発目標ということで、2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発のための2030アジェンダに記載され、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標のこと。17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上の誰一人取り残さない社会を目指すことを誓っている。

能美市は、SDGsの理念のもと2030年に向け、恵まれた自然や風土、長年にわたり育まれた能美のお人柄を強みとして自律的市民力・地域力を結集することにより、誰もが活躍できる豊かな暮らしを実現し、人口が減っても市民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる「暮らしやすさを日本一、実感できるまち」を目指している。

令和2年7月に、国からSDGs未来都市に選定され、選定証が交付されたと聞いている。SDGs未来都市は、地方創生に向けたSDGsの推進のため、全国の自治体の中からSDGsの達成に向けた優れた取り組みの提案を行う自治体の中から、地方創生分野における日本のSDGsモデルとして、国が選定するもの。この取り組みは2018年より始まり、今年で3年目となる。これまで60都市が選定され、今年度は新たに33都市が選定されたと聞いている。

市長から能美市のSDGsの取り組みについてわかりやすくご説明いただき、能美市商工会としてどのように協力すればよいか、研修させていただきたいと思っている。

2) 市長 講話

SDGsについて話をして欲しいと商工会の役員の方々からお話をいただいた。

「会社でSDGsをやっていますか？」

皆さんはおそらく難しいというイメージを持っているのではないと思うが、今日はそんな難しいことは無さそうだと思っていただけるように、話をしていきたい。

この世の中には、経済と社会と環境という3側面があり、それぞれバランスをとった政策を行うことによって、人間が、人間らしく生活できる世界を作っていこうと、17のゴールと169のターゲットを作っているのがこのSDGsである。

・能美市の課題

能美市の課題について、まず、人口減少では、これまでは人口が増えていたが、コロナ禍

の影響で外国人、留学生が減少している。会社では減産になり外国人技能実習生を採用できない状況になってきて、人口が減少し始めている。

次に、高齢化については、65 歳以上の全人口に占める割合は、今およそ 25.7%である。そしてもう一つ、65 歳以上の 1 人暮らし世帯が増えてきている。能美市が誕生したときには、654 世帯だったが、今 2,328 世帯となっている。これによりいろんな影響がでている。例えば、1 人暮らしの方が救急車を呼んだとすると、救急隊に自分の症状を言えないとか、飲んでる薬を伝えられない、誰に連絡して欲しいのかわからないというようなことが生じてくる。1 人暮らしの高齢者の増加は、いろんな問題が秘められているということである。

それから、いわゆる老々介護とか認々介護など、高齢者がお互いに介護をしなくてはいけないという世帯が増えている。これは能美市に限ったことではなく、日本中どこでも言えることである。この能美市においてもこういった現状にあるということを理解していただきたい。

他にも様々な課題がある。ゲリラ豪雨は、幸い床上浸水等には至っていないが、田畑の被害が相当でている。また最近、不登校の児童生徒が多くなってきている。これにはいろんな原因がある。そして、男女共同参画は、人材を確保していくという面で、女性の力を有効に活かしていきたいということで、我々も取り組みんでいる。それからゴミの分別等のリサイクル運動。これには市としては既に取り組んでいるし、皆様方も普段から取り組んでいると思う。

・SDGs の取り組み

私は、人口を増やすということが、いろんな意味でまちの勢いを評価するための一番わかりやすい数値なのではないかと考えている。

人口変動には二つ要素がある。自然変動と社会変動。今は、日本全国どこも少子化で、亡くなる人が多くなっている。もちろんたくさん赤ちゃんを産んでもらい、長生きしてもらうことも大切で、自然増のためにも取り組んでいくが、移住定住の促進のために、全ての施策を移住定住につなげていくということをやっている。

市の全ての施策に SDGs の 17 のゴールを紐づけてある。

市役所では SDGs 推進本部会議を設置した。私が本部長になり、部長以上が全てメンバーとなって SDGs のゴールを目指して施策を展開していく。能美市版の活動指標を作成してある。経済・社会・環境のそれぞれに施策があって、これを全部相互に関係させ取り組んでいくことによって、移住・定住の促進につなげていこうと展開させている。

SDGs を進めていく上で中核的な事業が、地域力強化支援ファンドというものである。これは具体的には、移送・買い物の支援、子ども食堂運営の支援、外国人が住みやすく安全安心に快適に暮らせる支援である。この 3 つに取り組む団体、あるいは町会・町内会に資金を提供するというのがこの地域力強化支援ファンド。この度、4 つの団体にこのファンドを利用してもらうということで認定式を行った。粟生町、松が岡は移送支援に取り組んでいる。それから商工会女性部まちづくり団体は買い物支援、緑が丘は子ども食堂運営や高齢者の

支援に取り組んでいる。商工会や JAIST、銀行、その他の団体等と関係を持ちながら、市全体でこの SDGs を進めていく。

・SDGs 活用によって期待できること

まず、企業イメージが良くなる。それから、社会の課題に対応して、いわゆる営利目的だけではなく社会貢献もしていることを知ってもらうことができる。それから、この SDGs によって企業イメージが向上することで、新しい取引先も生まれることが期待できると言われている。今、日本全国、世界全体で SDGs を取り組んでいる企業に注目したり、取引しようとか就職しようという流れになってきていることをご理解いただければと思う。

・取り組みの具体例

SDGs だからといって特別なことをしなくても、今までしていることをその延長線上で取り組んでもらえれば良いと思う。例えば SDGs には 17 のゴールがあり、その一つに環境に優しいというものがある。燃料費や電気代の節約、例えば電気をこまめに消したり、冷房の設定温度を上げたり、暖房の設定温度を下げたりといったことは普段から取り組んでいる。また、生産性の向上と、従業員のモチベーションを上げるために声掛けや教育に取り組む。そんなふうに、まさに普段から実施していることをさらにすすめてもらえれば、SDGs の 17 のゴールに全てがつながるということをご理解いただきたい。

市内のある企業では、CO2 の削減を一つの指標に挙げている。その企業の製品を使うことで CO2 をどれだけ削減でき、生産過程で原材料の使用量を削減することによりどれだけ CO2 の削減につながるのか成果の見える化ができています。

例えば車のガソリン使用量を抑えるような運転や、余った材料の再利用は環境に優しいというゴールにつながる。普段皆さんがコスト削減、あるいは、売り上げを増やすために取り組んでいることが全部 17 のゴールにつながっているということをご理解いただき、SDGs を捉えていただきたい。

普段の生活の中でも食べ残したものを捨てているが、これが大量になっていることは皆さんもご存じだと思う。この食品ロスの削減も SDGs につながっている。また、脱プラスチックによって環境に優しくなる。国際交流も、世界みんなで幸せに生活しましょう、言い争いをなくしましょうということが SDGs につながっている。ユニバーサルデザインは、障がいのある方や高齢者の方々のため、平等というところにつながっている。ボランティアで清掃作業したりということもつながっている。このように会社だけでなく、普段生活している中でも地域貢献のゴールにつながっているということである。

・今後の取り組み

市では、仮称「なんでも相談のみ SDGs」という相談窓口を設置する予定である。そして、「Web のみ SDGs」を立ち上げ、SDGs の基礎知識、日本でこんなことに取り組んでいるという事例を紹介する。能美市で取り組んでいる会社の活動状況、市全体としての活動も Web 上で配信していきたいと考えている。

また、「円卓会議のみ SDGs」というものを立ち上げていく。相談窓口・Web 版の設置・運営をどうしていくかということ協議するための円卓会議である。分科会を作ってやっていくつもりで、そこには有識者や、ここにいらっしゃる皆様方に参加して欲しいという思いをしている。これから、「のみ SDGs パートナー制度」という行政と一体となって SDGs を進めていく事業所を認定する制度を作る予定である。認定された事業所にはいろんな特典を付与したいと思っている。

それから、SDGs を進めていく中で成果を数値では表せないような取り組みがある。これを、「新国富指標」という指標を使って表していくということもやっていく。

・持続可能なまちづくり

今後、市全体のまちづくりを、それぞれの施設と主要幹線道路をフルに活用して、さらに進めていきたい。

産業団地「福島グランパーク」は、企業誘致が好調で、現在、交渉中の件を含めれば、ほぼ満杯になった。手取川に新しい橋が出来ると小松製作所の栗津工場と金沢港が直結する道路が繋がる。この辺りはさらにいろんな開発ができる可能性がある。それから、石川サイエンスパークがさらに大きく変われるように、積極的にやっていかなくてならない。能美東西連絡道路は 3 月末で完成予定。その後は小松側に工事を進めていく予定である。

全体的に能美市は、道路の周辺の多くが農地であり、転用が難しいという状況である。大きな工場用地にしても大きな宅地にしても、開発するために相当な時間がかかるため、根気強くやっていかなければならない。

空き家が増えてきている。集落の中の空き地等を利用して、宅地化し人口を維持していきたい。大きな宅地を造成すると集落の方や若い人たちがそちらに移住してしまい、集落が高齢化し空き家が増え、結果として悪循環を起こしている事例が国内にも多くある。集落周辺を開発しながら、高齢者と若い世代がうまく共存できるような町づくりをしていきたいと考えている。

次に、デジタル化について紹介する。防災行政無線は、多くの家庭では茶の間に置いてあると思うが、茶の間にいないと聞き逃してしまうことになる。避難勧告を発令したときに、薬や着替えを持ってきてください等、多くの情報をお伝えする必要があるが、全部正確に把握してもらえないことが課題となっている。SNS で情報を流すシステムに変えていきたいという思いがある。また、医療・介護では、必要なデータを患者からもらえない場合に、クラウド上のアップデートされた情報を救急隊員が確認できるようにしていこうと考えている。また、Web 九谷茶碗まつりや、農作業の自動化などを進める農村 DX にも取り組んでいる。のみバスでは、スマートフォンで、バスがどこを走っていて、停留所に何分後に来るということを確認できるようにする。また、GIGA スクールといって、学校で先生は黒板でなく電子黒板で授業をし、子ども達には 1 人 1 台パソコンを持ってもらって勉強をするというようになる。行財政改革としては、RPA などロボットを活用して行政サービスをしていくといったことも進めている。

能美根上スマートインターチェンジの近くに、2月6日、ビジネスホテル「スーパーホテル」がオープンする。そして、その近くに「すしべん」新店舗を出店してもらうことになった。また、辰口図書館の2階にギャラリーをつくる。物見山総合体育館は冷暖房を完備し避難所としても活用していく。クアハウス丸谷は来年の夏にエイムさんの運営でオープンする予定。入浴施設としての利用ニーズに応えつつ、子育て世代の若い人たちに運動ができる場所を提供していく。

最後に、SDGsの取り組みも、市全体の施策推進も行政だけではできない。市民力、地域力によって全体が達成できるわけで、市民の皆様にも能美市のことを誇りに思ってもらい、好きになってもらう。ふるさと愛の醸成に今後も取り組んでいきたいと思っている。そして、SDGsはそんな難しくない、今していることの延長線上にSDGsがあるということをご理解いただきたい。

3) 意見交換

(参加者)

ふるさと交流研修センターさらいについて、商工会ではこれまでいろいろな形で利用していたが、今後どうなっていくのか。

(市長)

コロナの影響でだいぶ利用者が減少していて、今、休止している。再開については、まだ具体的に決まっていない状況で、決まり次第、皆様にお知らせしたい。

(市長)

私から一つお聞きする。皆さん方の事業所でSDGsに既に少しでも取り組んでるという方は手を挙げていただけますか。

(数名挙手)

(市長)

今日、私が説明したように、皆様方が既に取り組んでいることがSDGsにつながっている。そんな目でもう一度見ていただきたいと思う。ぜひ考えてみていただきたい。

(参加者)

能美市がSDGs未来都市に選定された1番の理由は何か？

(市長)

評価いただいたことは、市民力、地域力が高いということ。町会長・町内会長がいろんな

取り組みを行っている。民生委員、児童委員、地域福祉委員会、それから介護の問題を考えているメモリアケアネットワークという組織など、たくさんの市民がまちづくりに取り組んでいる。さらに、商工会や商工会女性部、青年部のようなたくさんの団体が地域の発展のため、福祉のために取り組んでいただいているということに評価をいただき、選定された。

4) 閉会

以上